



$a_{n+1} = pa_n + f(n)$ 型の漸化式

命題. $f(n)$ を n の d 次多項式

$$f(n) = \sum_{k=0}^d q_k n^k = q_d n^d + \cdots + q_1 n + q_0$$

とする. $p \neq 0, 1$ とする. 漸化式

$$(i) a_1 = a, \quad (ii) a_{n+1} = pa_n + f(n)$$

で定義される数列 $\{a_n\}$ の一般項は,

$$a_n = ap^{n-1} + \sum_{k=1}^{n-1} f(n-k)p^{k-1} \quad (n \geq 2)$$

と表される.

証明の前に, いくつか言葉と記号を定義する.

定義. • 数列 $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$ に対して,

$$g(x) = a_1 + a_2 x + a_3 x^2 + \cdots + a_k x^{k-1} + \cdots \quad (1)$$

を, $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$ の (通常型) 母関数¹ という.

- 数列 $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$ の母関数 $g(x)$ に対して, m 次以上の項をまとめて, $O(x^m)$ と表す². この記法により, $g(x)$ は, 次のように表せる:

$$g(x) = \sum_{k=1}^m a_k x^{k-1} + O(x^m).$$

注意. 数列 $\{a_n\}$ の母関数 $g(x)$ の定義から, $g(x)$ が求まれば, その $n-1$ 次項の係数を見ることにより, 数列 $\{a_n\}$ の一般項 a_n が求まる. しかし, $\{a_n\}$ の一般項を求めるだけであれば, $g(x)$ そのものの値は特に問題にせず, $n-1$ 次項の係数だけを確定させれば良い.

例えば, $|x| < \frac{1}{p}$ のとき, 無限級数 $\sum_{k=1}^{\infty} (px)^{k-1} = 1 + px + (px)^2 + \cdots$ は収束し, その値は,

$$\sum_{k=1}^{\infty} (px)^{k-1} = \frac{1}{1-px}$$

と書けるのであった. これは上の記号を用いて,

$$\sum_{k=1}^m (px)^{k-1} + O(x^m) = \frac{1}{1-px} \quad (2)$$

と表せる. 以下の証明においても, m は n より十分大きい数として, x を適当に設定することにより, (2) の等式を形式的に用いる³.

¹関数と言っているが, 形式的幕級数のことである.

²ランダウの記号と呼ばれる.

³ x の値は, 母関数の係数 a_n には影響を及ぼさないで, このような計算を用いても問題はない.

証明. m は $n \geq 2$ より十分大きい自然数とする. 数列 $\{a_n\}$ の母関数を $g(x)$ とする.

$$\begin{aligned} g(x) &= a_1 + a_2x + a_3x^2 + \cdots + a_mx^{m-1} + O(x^m) \\ -pxg(x) &= -pa_1x - pa_2x^2 - \cdots - pa_{m-1}x^{m-1} + O(x^m) \\ -\sum_{k=1}^{m-1} f(k)x^k &= -f(1)x - f(2)x^2 - \cdots - f(m-1)x^{m-1} \end{aligned}$$

の辺々の和をとることにより, 等式

$$(1 - px)g(x) - \sum_{k=1}^{m-1} f(k)x^k = a + O(x^m)$$

を得る. 上の注意で述べた等式 (2) を用いることにより, 母関数 $g(x)$ は,

$$\begin{aligned} g(x) &= \frac{1}{1 - px} \left\{ a + \sum_{k=1}^{m-1} f(k)x^k + O(x^m) \right\} \\ &= \left\{ \sum_{k=1}^m (px)^{k-1} + O(x^m) \right\} \left\{ a + \sum_{k=1}^{m-1} f(k)x^k + O(x^m) \right\} \\ &= a \sum_{k=1}^m (px)^{k-1} + \left\{ \sum_{k=1}^m (px)^{k-1} \right\} \left\{ \sum_{k=1}^{m-1} f(k)x^k \right\} + O(x^m) \\ &= \sum_{k=1}^m ap^{k-1}x^{k-1} + \sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^{m-1} f(j)p^{i-1}x^{i+j-1} + O(x^m) \end{aligned}$$

と計算できる. この表記から, $g(x)$ の $n-1$ 次の係数 a_n は,

$$\begin{aligned} a_n &= ap^{n-1} + \sum_{\substack{i+j=n \\ i,j \geq 1}} f(j)p^{i-1} \\ &= ap^{n-1} + \sum_{k=1}^{n-1} f(n-k)p^{k-1} \end{aligned}$$

であり, これが求める一般項である. □

例. $f(n)$ が定数 q である場合の一般項は,

$$a_n = ap^{n-1} + \sum_{k=1}^{n-1} qp^{k-1} = ap^{n-1} + \frac{q(1 - p^{n-1})}{1 - p}$$

と計算できる⁴. また, $f(n) = q_1n + q_0$ である場合の一般項は,

$$a_n = ap^{n-1} + \sum_{k=1}^{n-1} \{q_1(n-k) + q_0\}p^{k-1} = ap^{n-1} + \frac{f(n)(1 - p^{n-1})}{1 - p} - q_1 \sum_{k=1}^{n-1} kp^{k-1}$$

と計算できる⁵.

⁴これは, <https://gleamath.com/recurrence-relation03/> で求めた結果と一致している.

⁵これは, <https://gleamath.com/recurrence-relation04/> で求めた結果と一致している.